

第 129 回 火力専門委員会 構造分科会 議事録

I. 日 時：2025 年 8 月 5 日（火）13 時 30 分～17 時 00 分

II. 方 法：対面+Web による会議

III. 出席者：西田（三菱重工）、茂山（電中研）、飯田（JERA）、大熊（関西電力）、
井山（東芝 ESS）、須間（三菱重工）、湯原（配管技術研究協会）、
羽生（富士電機）、土蔵（川崎重工）、川口（三菱重工）

代理者：佐藤（栗本（JERA）代理）

欠席者：菊地（IHI）、金城（沖縄電力）

事務局：中村

IV. 資料（CS キャビネット 構造分科会会議資料登録）

129-1 第 127 回構造分科会議事録（案）

129-2 構造分科会委員名簿

129-3 第 112 回火力専門委員会議事録（案）

129-4 第 114 回規格委員会議事録（案）

129-5～7 2028 年版（仮）発電用火力設備規格（詳細規定_第Ⅲ章_ボイラ・第Ⅳ章_圧力容
器・第Ⅴ章_配管）レビュー表

序文、PG-67～73、APP A-260～270、APP A-300～317、APP B

UG-34～39、UW-46～60

105～118、127

V. 議題

1. 前回議事録確認

【資料 129-1】

前回議事録（案）の確認を行ない議事録案は承認された。

2. 分科会委員・役員の承認

【資料 129-2】

（新任）なし

（退任）なし

（再任）西田委員、栗本委員、大熊委員

再任候補として3名を次回火力専門委員会に推薦することが出席委員全員の賛成により承認された。

再任候補の金城委員について 8/5 時点で委員再任の受諾の回答が得られていないため、次回開催（9/19 開催）にて審議を行うこととした。

3. 報告事項

(1)火力専門委員会報告

【資料 129-3】

5 月 28 日開催の第 112 回火力専門委員会の主要項目が報告された。

○構造分科会委員の承認 （新任）なし

(退任) なし

(再任) 飯田委員

○第 128 回構造分科会 (5/15) の報告

○審議事項

・2025 年度 構造分科会 活動計画案の作成

・2028 年版 (仮) 発電用火力設備規格 (詳細規定_第Ⅲ章_ボイラ、第Ⅴ章_配管)

レビュー表の内容確認 (第Ⅲ章 PG-58~61, PG-75~82, PG-90~113, PHRSG, APP
A-360~383, 第Ⅴ章 101~102)

(2) 規格委員会報告

【資料 129-4】

6 月 19 日開催の第 114 回発電用設備規格委員会の議事のうち、火力関連事項に関して報告された。

○規格委書面投票 NO.669 (第Ⅶ章) の誤記修正の意見対応を反映した修正案の書面投票の実施提案

○火力専門委員会報告

4. 審議事項

(1) 2028 年版 (仮) 発電用火力設備規格 (詳細規定_第Ⅲ章_ボイラ及び第Ⅳ章_圧力容器、第Ⅴ章_配管) レビュー表

【資料 129-5~7】

内容は以下のとおり

・全般：用語の反映。用語集 (資料 126-10) を参照のこと。

呼び込み項目番号には“項”の追加

ASME イタリアック体表記に対する JSME への対応は継続検討、別途調整する。

「または」「もしくは」は漢字表記とする→「又は」「若しくは」

shall の和訳は「～すること」ではなく「～する」とする

受動態表現→能動態表現に修正については主語により語尾は必要に応じ使役表現ももちいて適切なものとする

～する→～させる、満足する→満足させる

<レビュー表 序文：西田委員 (MHI 博)>

・序文：コメントなし

<レビュー表 PG-67~73：井山委員 (東芝)>

・PG-67.2：PG67.4 及び PL-54 の JSME への取入れの確認を行う。

・PG-67.2.1.1：「いずれかの処置をとること」は「いずれかの処置をとる」に変更

・PG-67.2.1.1.1：「効果を考慮すること」は「効果を考慮する」に変更

・PG-67.2.1.6：ASME 側に記載の「d23T」は転記ミスと思われる。

・PG-67.5：項の追加。付録 A⇒Appendix。表 A-400 はメトリック採用で A-400M に修正。

・PG-68.7：「表-401」を「表-401M」に修正

・PG-69.1.5：ASME 記載削除に伴い、JSME への記載なしとしたが、JSME で JIS を呼び込んでいることもあり、ASME の記載の移動を確認し、2028 年 JSME への記載の要否を判断する。

・PG-69.2.1~2：ASME Section XⅢの引用項目の内容を確認、JSME 取入れの要否を判断

し、必要に応じて変更箇所を修正して引用を検討する。Section の前に表記としてASMEを追記する。

- PG-71.3：項の追加。「付録 A」⇒「Appendix A」
- PG-73.2.3：2028 年 JSME の記載を変更（変更なし、2025 JSME の記載内容で用語の修正を行う。）＜レビュー表 APP A-260～270：西田委員（MHI 博）＞
- PG-260.4～5：定義の「線形指示」と合格基準の「関連線状指示」の記載の統一をおこなうため、JIS を確認する。⇒JIS Z2343 の記載は線状きずのため、線状に統一。

＜レビュー表 APP A-300～317：須間委員（MHI 熱）＞

- APP A-302.3：一文の文章が長いので、ダブルチェックの時にも確認する。
- APP A-302.10：「および」を「及び」に変更
- A-317.3（c）注記 3：「除いてしまった」⇒「除いた」に変更
- A-317.3（e）注記 5：符合の振り方は全体に関わるので他の事例も見て今後継続検討。

＜レビュー表 APP B：大熊委員（関西電力）＞

- コメントなし

＜レビュー表 UG-34～39：羽生（富士電機）＞

- Mandatory Appendix 及び Non Mandatory Appendix の和訳はいずれも Appendix を用いる
- UG-34（b）：K のインチ単位表記は削除
- UG-37：用語集にない“vent hole”の ASME の和訳は「通気穴」であることを確認した
- UG-35.2.(b)(7)：「パーシャルデータレポート」の取入れ要否を確認する。UG-35.3.(b)(1) も同様。
- UG-35.2.(b)(8)：APPNDX FF の取入れ要否を確認する
- UG 全般：PG ととも内容比較して省略可否を検討する

＜レビュー表 UW-46～60：佐藤委員代理（JERA）＞

- UW-47～49：PW の内容に包含される解釈により省略。省略する箇所の記載は、他を参考とする
- UW-50(b)：誤記訂正（USC→UCS）。(2) 高合金鋼 UHA 及び(3)非鉄金属（UNF）は IV 章では取り入れてないので不要。

＜レビュー表 105～118：土蔵委員（川重）＞

- APPNDX N の取入れ要否を別途検討します。その後必要に応じて反映する。

＜レビュー表 127：川口委員（MHI 熱）＞

- 127.2.1 他：追加の(g)「P-No」は「P 番号」、「グループ No」は「グループ番号」に修正
- 127.4.2.1：用語 液体浸透法⇒浸透探傷法 磁性粒子法⇒磁粉探傷法 に統一。
- 表 127.4-7.1：「設計温度での補強最大厚さ」を「設計温度での余盛り最大厚さ」に修正
- 127.4.4-1：すみ肉の「α角」は「θ角」の誤り（フォントの差異による）
- 図 127.4.4-3：ソケット差込部のクリアランスの寸法について 2012 年 ASME 記載の 2 mm に対し JSME では 1～3 mm とした変更理由が不明なため確認する
- 127.4.8（f）：「溶接厚さの 1/2 又は 13 mm いずれか小さい方の範囲で、すべてのアクセス可能な最終溶接面で実施する」は「溶接厚さの 1/2 又は 13 mm ごと小さい方の範囲に加えアクセス可能な最終溶接面で実施する」に修正する

- 図 127.4.8 中：「バンド穴」については「通気穴」に統一する。
- 127.4.9：「溶接手順仕様書」を「溶接施工仕様書」に、「溶接手順」は「溶接施工法」に修正

6. 次回・次々回開催予定

開催日時：2025 年 9 月 19 日（金） 13 時 30 分～17 時

2025 年 11 月 7 日（金） 同上

開催方法：Web＋対面（一部）

以 上